

011.8
1
上

政學記

上

：



心手合一

心手合一

湖天閣  
与海山



あふ五申歳

孫才庵

村前選

詠ふ

しりし風雅を存し人語をわろく存

辨あつれ有ゆはしれ類ひもを部の

むらりもを存するの目かしのひるるに

息しんばもまた又也川の細流をよこ

キヨウ

しるる細さの友あれとるりしむらり

中より土佐のり抄とすしりる彼

あふ五申と志すあふ五申とるりる

二の年

改工

遊覧するに好むは、御花園の草花  
 たちをねらひて、花のまをさしては、あつて、花  
 畑をまきかき、ついでに、ついでに、ついでに  
 換<sup>カ</sup>ひ、おもしろい、色も、よく、よく、よく  
 かつ、おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに  
 けい、おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに  
 けい、おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに  
 けい、おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

おもしろい、ついでに、ついでに、ついでに

おもしろい

改工

雲のまはりにあはれしよの  
水之  
孤松  
花法  
を縁  
加紅  
後  
多

十  
紅  
茶  
了  
文  
卜  
之  
川

右 録

うらみし向りくもやまきりあり 其後  
 まのゆやまのまの川の海もつら 其後  
 分るゝ所ふたは所 火地ふ 松字  
 ちやまらや松山よつゝにあらも 松山  
 はまや月うさうれん松のうへ 松十  
 せしちもまきりまのつゝ海もま 松七  
 まのうへあつた云と月のみ 巴ト

物さあまうゝかして 赤うた 心仁  
 まままふはまえやう 在る 在振  
 ちまのしうにまを さまりうら 加よ  
 城ひつゝ 海もまじし さまのち 下は  
 うらまやまを 松のかきへられ 其後  
 天さうわや 人の脚た ちまふ 松  
 ちまふまらうゝまを ちまふ 松  
 海しん人多遠し ちまのち 松

静のまはらうしと正々わらうし

くまはらうしとわらわしやゆはゆ 松後

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 綴ふ

後う新しき月元の形かゝりぬ 十号

~~~~~ けしけし 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後

~~~~~ 松後





我々もこの日公家さへも内にお  
けりし屋のふりつるはさしゆ申  
さし

柳原

かひし周のめく様田のわしと尋た  
けりし様さし大はりしきれ柳原

亭のさる思つとらん一尋  
おけりし様さし大はりしきれ柳原

柳原

さし目し山とさるおのちしりし

さし目し山とさるおのちしりし 柳原

さし目し山とさるおのちしりし 柳原

さし目し山とさるおのちしりし 柳原

さし目し山とさるおのちしりし 柳原





あつしやゆあくしんか批読 横園

矢野

横園より見よやしき行のり

よきよとのあや文質定一に所

あつし田七しんやきあに相筆一

各録

空くれしきあふやうしき田ふ ちん

あつし中うん形りもあつ 種類 ちん

らつしん一しきあふや中あし 形長

あつしあふまのりしきあしああし 車

あつしあふまのりしきあしああし 車

徳正

あつしあふまのりしきあしああし

可憐なる遊亭へ掃く竹のこぼり  
掃く竹のこぼり  
しとんえいけゆつへ掃居る徳也  
なつらとまふ

竹のこぼり

留る

下八万のこぼり  
土のこぼり  
海苔のこぼり

ちとせや 掃居る茶 龍吟

留る

ちとせや

茶のこぼり

ちとせやのこぼり

完

掃く竹のこぼり



唐よりや傳へし今頃その様

三三

はらへしやト雅細と  
平の事

中よりや杖と

はらへしや杖と

羽根

中よりや杖と  
ヒナリ  
はらへしや杖と

はらへしや杖と  
はらへしや杖と  
はらへしや杖と  
はらへしや杖と

はらへしや杖と

田中

はらへしや杖と  
はらへしや杖と  
はらへしや杖と

~~~~~

~~~~~  
田中

本日は  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
カハセ  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



福とく 勤ふる 命の 命か  
帆支

何の 幼と 多遊の 体心  
可全

女房より 去と 彦姫、 彦方より 出  
まは

あやの 玉に 玉の 玉の 玉  
とと

玉子の 親や して 活多 長  
幼し

去 侍より 命の 又なる 命の 好き  
里楓

ゆくと 玉の 玉の 玉の 玉  
孫山

葉に 中より 持し 玉の 玉の  
とと

まろく 玉の 母の 打 玉の 玉の  
南地

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
魯重

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
夜命

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
扇里

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
玉の

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
知中

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
字

玉の 玉の 玉の 玉の 玉の  
凡



酒 せし程命り 汝さるに 陸くふ あり  
し したるや かきし 月のかしと 雲  
さや 花うかきし ちり 露 菊  
さるし ちり 雲 ちり 雲  
酒 陸くふ 夕月 初之  
し 汝さるに 陸くふ あり  
ありし 汝さるに 陸くふ あり

酒 せし程命り 汝さるに 陸くふ あり

之 秋

きさ 花うかきし ちり 露 菊  
らありし 汝さるに 陸くふ あり

安土 秋

きさ 花うかきし ちり 露 菊

らありし 汝さるに 陸くふ あり

きさ 花うかきし ちり 露 菊



常におたつたはるるもてはるる

おのひにきくにすまはるる

上ニはるるるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

あつたはるるるるるるるるる

英

川

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英





歌仙行

もとの心麻しき言や魂なき

子月

さらけのくちし自の世は成

朴島

又のまよひのちんまきひくは

路由

海に川あり 海に川あり

松尾

あはれあはれきしちららら歌ありふ

二歌

あまのこゝろ 恋こゝろしづく

松尾

清くつらな心強しうらなは

中廣

よせの心よのちんまきひくは

比老

ひまの仁入の多にまきん歌は

左近

あまのこゝろあはれひくは

村田

しんまの心たきまのあはれ

中廣

あまのこゝろあはれひくは

松尾

あまのこゝろあはれひくは

自山

あまのこゝろあはれひくは

松尾



万の... 結の上

元々... 京市

... 山

... 羽生

... 以心

... 多敷

... 豆黄

... 甘多

... 高市

... 物子

... 高市

... 左除

... 野良

... 和夕

... 書

... 筆書



くちのり 目しつふ 世阿弥 比老  
志す 目しつふ 一多し ちし ち原 柳也  
流し ちし ち原 ちし ち原 七周 ち原 李原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
文和 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
又 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原

くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
市馬 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
柳 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原  
くちのり ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原 ち原



子時

寝るなり

原

草風

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





必我の...の...も...あり

か...の...世...一...

う...の...の...の...

派...の...の...便...

會...の...の...の...

控...の...の...の...

控...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...

...の...の...の...



追はふこはなをまはるかに  
山泉

飛つらカ子れをこしんす  
以て

うのんしそつはあもけあし  
文部

柳もぢみく馬のこゝろ  
子夕

る録

毎のこカきつてやと  
山泉

蜜ミツ蜂のまひうふや  
山泉

山泉  
星地

みはのなを  
一

さうつふね  
山泉

あつらふ  
山泉

しん  
山泉

あつらふ  
山泉

あつらふ  
山泉

あつらふ  
山泉

らふとてしるるをさし一梅のふ  
呂舟

川捨しぬれいぬのふりや  
遠望

路のまやあつたふらふらとせ  
文星

きくわあを梅くはらう少きわ  
遠望

勢あつた島ささる人たねし  
古月

あつたあつたかゝる人の蹤  
筆之

あつたあつたあつたあつたあ  
奇松

あつたあつたあつたあつたあ  
為文

あつたあつたあつたあつたあ  
松文

あつたあつたあつたあつたあ  
文星

あつたあつたあつたあつたあ  
如泉

入工 濠中連中

あつたあつたあつたあつたあ  
如三

あつたあつたあつたあつたあ  
奇松

あつたあつたあつたあつたあ  
為文



片末之や毎るふく 結吟七

結吟行

世帯ややまの又歌く 這色し

以抄

自りて抄く 一羊大 一羊一 抄

おろし結掛ぬらぬら 風吹く 琴凡

馬七娘ハ一 牛七家ハ一 一蓮

高し 田部七 下と 高よふ 高五

山 歳評をさし 一と 高ふり 高泉

高し 子抄ぬらぬら 高き 高化

高のき 一と 高き 高子

高のき 一と 高き 高子

高のき 一と 高き 高子

高のき 一と 高き 高子

高のき 一と 高き 高子







名録

かゝるやまをいふは

いふやまをいふは

又、枯やまの常のま

柄らやまのま

まゝに枯やまのま

まゝに枯やまのま

よ南やまのま  
かゝるやまをいふは  
いふやまをいふは  
又、枯やまの常のま  
柄らやまのま  
まゝに枯やまのま  
まゝに枯やまのま

かゝるやまをいふは

頃等



くわんがくかの人くわんか  
大正九年八月十日

くわんがくかの人くわんか

経文

くわんがくかの人くわんか

鳥

月一日 卯 酉 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか

くわんがくかの人くわんか





